

## IBC2010 Florianopolis 公開版

佐藤俊哉 京都大学医療統計

2010年12月5日(日)レセプション

ブラジルはフロリアノポリスで開催の IBC2010 に参加のため昨日から現地入りである。今日はウェルカムレセプションがあり、3時15分過ぎとなったのでホテルの部屋からフロントに降りていく。するとすでに学会関係者何人かがたむろして、学会のバスを待っているのかと聞くとそうだとのこと。奇跡的に時間通りにバスが来たが、バスが小さくて3人が置いて行かれた。やっぱりバスでの送迎は難しいのはてさて神戸ではどうしたもんか。30分くらいで会場のサンタカタリナ連邦大学に到着しレジストレーションを済ませる。レセプションは5時から。まだ Council Meeting とショートコースをやっている。

そういえば日本は IBC2012 の展示スペースをもらっているのでもとみるとテーブルがあるだけでからっぽ。あわてて受け付けで「日本送った、ぶつ、届いたか届いてないか」というと、そういえばなんか荷物が来ていたわと別室に連れていかれたが、全部 CRC Press の書籍。上司に確認するというのでついていくと、上司はポルトガル語でしゃべるのでおとなしく待っていたら、サンパウロに着いたのは分かったが、そこで足止めされている、明日には着くと思うとのこと。

しばらくすると東大 松山先生の代理で Council Meeting に出席してもらった久留米大服部先生が出てきた。服部先生、昨日サンパウロからわたしとおなじ飛行機でくるはずだったが、サンパウロまでの飛行機が遅れてゆうべ遅くにホテルに着いたそう。IBC に参加するのもたいへんである。統数研の逸見先生と小森さん、癌研 牛島先生がショートコースに来ているそうだが、まだ終わる気配がない。IBS 元会長の Tom Louis 先生、Geert Molenberghs 先生にあいさつする。5時ごろショートコースが終わり、ようやくレセプションの始まり。レセプションは96年のアムステルダムと02年のフライブルグに出席したが、ドリンク1杯とちよっとのおつまみ程度のもので、人々でござった返すのと、食べ物が運ばれてくると大勢がわれ先にと群がるので、それ以降はレセプションはパスしてきた。今回はブラジルの軽音楽の生演奏つきであったが、かえって話ができず、みなさん大声ではなさなければならず逆効果。飲み物はジュース(オレンジ、グワバ、パイナップルともう一種類得体のしれないもの)、シャンパン、フードはこれまた得体のしれないブラジルのから揚げやコロケの類と、パンに得体のしれないスプレッドが2種、といったもの。フードは後から後から運ばれてきて、シャンパンのお代わりも次々でくる。どうやらブラジル支部はパーティーには気合が入っている模様。揚げ物を何種類か味見しているうちに、なんとなくお腹も満たされた。

前会長の Andrew Mead 先生、IBC2008 ダブリン大会の国内組織委員長の John Hinde 先生にあいさつし日本支部の会長だということ、Hinde 先生はイギリス・アイルランド支部の会長で、すぐそばにいたイタリア支部の会長(名前は失念)に紹介される。ブラジル支部の国内

組織委員長 Dalton Andrade 先生、会長の Paulo Rebeiro 先生にもあいさつする。レセプションはたいいてい 1 時間くらいで、三々五々食事をしにでかけていくのが常なのに、今回は 17 時から 19 時まで予定されていてしかも会場とホテルが離れているのでホテル行きのバスがでないと帰ることもできず、だんだん腰が痛くなってきた。

Andrade 先生に「ホテルで休みたいので早めにバスを出してもらえないか」と聞くと、それは無理だしまだまだ音楽とダンスも続くのにどうしてだ、というので、「ジェットラグで疲れているので、どこかでタクシーを拾えるか」というと、係りの人に言ってタクシーを呼んでくれ 10 分してくるとのこと。やれやれと服部先生と逸見先生にタクシーで帰ろうという、おふたりは逸見先生の Warwich 大のときの仲間と飲みに行くことにしたそうで、先生も一緒に行きませんかとわれたが、そんなのに合流したらいつ帰れるかわからないのでお断りし、ひとりでタクシーを待つ。が、10 分以内にくるはずのタクシーが全然こないではないか。そうこうしているうちに 6 時 45 分となり、ホテル行きのバスが準備されはじめ、ばかばかしいのでバスに乗りホテルには 7 時半ごろ到着。木曜のカンファレンスディナーのバスの帰りは夜の 1 時となっていて、どうなることか先が思いやられる。

12 月 6 日 (月) ようやく学会のはじまり

今朝は 7 時半にバスが来るので、支度をして 6 時半にレストランに。パン 1 枚にソーセージトマト煮込みと、もう一種類別なソーセージを玉ねぎと煮たのがあったのでそれとオレンジジュース。ブラジルのソーセージ料理はおいしい。今朝はフルーツミックスを少し多めに取り、コーンケーキとコーヒーにミルクたっぷり入れてカフェオレにする。フルーツはおいしく食べられたが、コーンケーキは微妙なスパイスが入っていて外れ。

下に降りてバスを待つ。昨日と違って変ってバスが来ない。そうこうするうちに何台かバスが通り過ぎていき、ようやく来たと思ったら空のが 2 台続く。どうも家族経営の小さい旅行会社が総出で精いっぱい運営しているようだがもうちょっとちゃんとしてほしいものである。神戸ではやはりバス輸送ではなくポートライナーを使ってもらったほうがよさそうなので、学会期間中のフリーバスを用意できないか検討しないといけない。

途中の一番いいホテル Majestic から丹後先生はじめ保健医療科学院のみなさんが乗り込んできた。今朝は 9 時始まりなのに、8 時前に会場についてしまう。用意されたバスしかアクセスの手段がないので、自由が利かず困る。会場で寒水先生と野間くんをみつけた。ふたりとも昨日無事についたようだ。受付に行き日本からの荷物は届いたか聞くと、まだ 8 時なのでできていない、10 時ごろには届くのではないかとのこと。丹後先生と科学院の山岡先生に展示のうちわとパンフレットがまだ届いていないことを話す。なんでも科学院組はロンドンで飛行機の故障でたいへんな遅れとなったそう。丹後先生たちが神戸のポスターを印刷して持ってきてくれたので、ブースに貼る。

オープニングセッションでは、壇上に IBS 会長 Kaye Basford 先生、副会長 Mead 先生、国際プログラム委員長 Vincente Nunes-Anton 先生、国内組織委員長 Andrade 先生、ブラジ

ル支部会長 Rebeiro 先生、アルゼンチン支部会長が並び、自分も 2 年後には並ばないといけないのかと観念する。壇上には一緒に 11 年分のカンファレンスバッグが並んでいて誰かがよくとってあったなあ、と感心する。いきなりブラジル国歌の演奏なので全員起立と言われたまげた。こんなのはじめてである。次期 IBS 会長にはブラジルの Clarice Demetrio 先生が、庶務と会計は一緒にし現会計理事の Linda Young 先生が決まったようだ。会長のお話は今回新しくなった IBS の運営方針についての説明で、各支部の代表以外にはあまりおもしろくはなかったようである。

コーヒブレイクとなり、取るものもとりあえず荷物が届いたか確認する。今度は 12 時までには、とのことであきらめてコーヒとなにやらケーキをつまむが、これまたビミョーな味。次のセッションはいよいよ野間くんが発表、国際学会発デビューである。トップは Louis 先生で SNP のアソシエーションスタディ、次の演者はキャンセルしたので野間くんの番なのだが、IBC ではキャンセルが出てもくり上げないルールとなっているので、ばかばかしいがなにもせず 10 数分待つ。神戸ではこのときもなにかすることを考えておいたほうがよさそうだ。満を持して野間くんの登場。英語はまったく通じないので、発表練習の時に、スライドのどこをしゃべっているのかわかるように矢印を入れろ、とあれほどいったのに守っておらず、聞いている人たちには残念ながら何語もまったくわからなかったと思う。まあでも初の国際学会なのでおまけして 30 点。野間くんの発表が終わるや否や招待セッションに移動し、Andrea Rotnitsky 先生や Anastatios Tsiatis 先生の講演を聞きに行くが、さっぱりわからない。

お昼になったのでサンドイッチを受け取り、寒水先生、野間くん、城西大学の長島さんと、会場の前にあるテントにみなでいく。満員だったが、一人で座っていた人のところを襲って、取り囲むように無理やり座る。どこからのきたの、と聞くと「ペルー」。かわいそうな人である。みんなでさんざんしゃべっていると、くだんのペルーの人が食事が終わり去って行ったので、向こうのベンチで食事していた科学院の飛田先生と高橋先生を野間くんに呼びに行かせる。日本ではどうしようか、野間くんは Louis 先生の専属係りにしよう、などと話がまとまる。ランチはサンドイッチに小さいデニッシュ、グラノーラバー、ネクターの甘〜い飲み物。サンドイッチについては多くは語らない。だべっているうちに 2 時になったので会場に戻る。Epidemiology のセッションで、またまた 2 番目の演者がキャンセルで無為なひと時を過ごしたので、ほんとうになんとかしないと。4 番目の人が傾向スコアの話なので聞きに来たのだが、残念な発表だった。

さて 4 時からは Conference Advisory Committee。日本の次の IBC はヨーロッパ/アフリカの番なのだが、現在南アフリカしか立候補していない。委員長のインドの Ashwini Mathur 先生が来られなかったので、Hinde 先生が代わりに委員長代行となる。最初に IBC2010 の報告と IBC2012 の進捗の報告があり、日本の IBC では途上国の会費が安すぎるのでなんとかしろと言われる。モントリオールで途上国は正会員の 1/7 と決まったじゃないかといったのだが、それは昔のことだそうで、正会員の 40%にして学生もおなじにしろ、ということになった。続いて南アフリカのプレゼンで、まあこのプレゼン自体はイベント会社が作成している立派なもので

問題ないものの、質疑の後プレゼンターが退出すると嵐のような議論となった。一番はやはりセキュリティの問題で、会議場の周りに立派なホテルがあるそうだが、ホテルから会場まで歩いていけないとか、セキュリティの費用にお金がかかりすぎるとかで、結局南アフリカはだめ、ヨーロッパの支部に声掛けをする、ということになり、今年はブラジルの開催がすでに6ヵ月遅れているので、これからするのはたいへんだがしかたがない。

この後、わたしがモントリオールで提案して変更となった、ヨーロッパ/アフリカ・南北アメリカ・アジア/オセアニアというローテーションが問題となったが、悪いのはローテーションではないという議論になったように思う(が、結論はどうなったのか定かではない)。このあと18時から各支部の役員とのレセプションが予定されていたのであるが、準備を忘れていたらしく、Andrade先生とRebeiro先生が謝っていたが、もう帰りたいのでちょうどよかった。寒水先生の発表もつつがなく終わった模様で、ふたりのご苦労さん会ということでみんなで食事に行くことに。

ところが今日は7時半までバスが出ない。寒水先生が「丹後先生たちは交渉してバスを出してもらって帰った」というので、寒水先生、興和の五所さんが交渉に行き、ひとり10リアルといわれたそうだが(西川先生によるとこれが明日には5リアルになっていたような)、それでみんなで帰ることにする。車が来たというので下に降りていくと、先に待っていた人たちが出発し、そのあとが来ない。15分くらいして中型のサイズのバスが来て、乗れというが出発の気配がない。どうも早く帰る人たちから10リアルふんだくだけふんだくって、バスを満杯にして大儲けするつものようだ。

寒水先生、野間くん、服部先生、逸見先生、五所さん、長島さんの大所帯で、ホテルのすぐ2軒隣にあるレストラン Lidacap に行こうとフロントでいいレストランかどうか聞くと、Lidacap はとってもいいレストランだが、月曜は休みとのことではずがーん。困ってどこかいいレストランはないかという、海岸沿いは月曜でも空いているとのこと、Toca Da Garoupa というシーフードレストランを薦められた。明日丹後先生主催の日本人会があり、それもシーフードレストランの予定。でもまあもうそこしかないのので地図を印刷してもらい、タクシーを呼んでもらう。

さてタクシーで行こうとすると、今度は運転手がなにやらポルトガル語でそこは休みだから別なところに行けと店のチラシを出してみせる。どうみても怪しいので、英語のできるフロントのお兄さんに来てもらったところ、「別な可能性として少し離れたラグーンにあるシーフードレストランを薦めた」とのことであるが、絶対嘘である。ラグーンというのはカンファレンスパーティーの会場のところで、とても「少し離れた」どころではない。Garoupa に行くというとタクシーの運転手もようやくOKし、2台で出発。そうこうするうちに、Garoupa に着きなかなか立派なレストランである。

メニューは当然ポルトガル語で英語のはないかと英語で聞いてもウェイターが英語を話せないで、「メニュー、アングレ」などといいかげんをいうと英語のメニューがでてきた。お値段はかなりよく、本格的なレストランである。月曜はほんとにどこも休みのようで、アイルランドのHinde先生ご一行、名前は知らないがIBCでよくみかける女性とその旦那がやってきた。とも

かく chopp(生ビール)を頼み、お疲れ様と乾杯。まあまあのビール。スターターにかこのコロッケとシーフードサラダを頼み、メインをみていると英語でもよくわからないので往生しているとくだんのウェイターがきて「海のフルーツのグリル盛り合わせ」というのを黙って指さす。日本流にいうと「海の幸」か。ひとつ 250 レアルで 3 人前だというのでそれを 2 つ頼む。コロッケはおいしく期待できそうだ。シーフードサラダは期待外れで日本風のものとは大違いであったが、うれしい期待外れで、シーフードをサラダに見立てて盛り合わせた、これをゼリーで固めたらパテになりそうな一歩手前のようなもので、野菜は下に敷いてあるレタスだけ。ビールが進む。

このあとしばらく時間がかかり、でてきたグリルをみてびっくり。これがまた、たこ、えび、ロボスター、たら、ポテト、玉ねぎ、ブロッコリー、ニンジンなどのグリルの盛り合わせで、ブロッコリーと炒めたライスもついていて、ボリューム十分。またお味もよく、たこが美味だったのと、玉ねぎも甘く、付け合せのライスがチャーハンみたいでおいしかった。7 人で食べてもボリュームたっぷり、結局少し残ってしまったが、もう 10 時なのでお勘定とタクシーを頼む。長島くさが持ってきた、簡単ポルトガル語会話が活躍する。部屋に戻ると、あきらかに食べ過ぎの兆候がでて困った。シャワーを浴び、もう 11 時、明日はバスが 7 時 15 分に来るのであわてて寝る。野間くんは服部先生の発表を聞いて勉強しますといていたが、レストランですでに意識を失いかけていたので、明日は確率 1 で学会にも来ないであろう。

## 12 月 7 日(火)IBC2012 決起集会

5 時過ぎに起きて支度をして食事にでかけ、ゆうべは食べ過ぎだったので今日はフルーツミックスとオレンジジュース、少々ヤッキーなストロベリーヨーグルトドリンク(甘々)、コーヒーのみとする。あつというまに 7 時過ぎたので下に降りていくと、今日は珍しくでっかいバスが時間通りに来た。会場に着くと日本からの荷物がついたそうなのだが、関税 12 万円を払わないと持ってこないとのことで、丹後先生が立て替えることに。丹後先生は次期 IBC の組織委員長なので旅費が IBC2010 から支払われ、しかもそれを現金でもらったとのことで(封筒に無造作に入れられた 50 レアル札の束をみせてもらう)それを使って支払うとのこと。

最初のセッションで服部先生が発表なので行くと「いやがらせですか」、いや応援ですよ。科学院の高橋先生、飛田先生、西川先生もいやがらせ、もとい応援に来たものの、共同研究者の逸見先生はセッションが始まる前にいなくなってしまうし、野間くんなんか当然のように来ていない。服部先生の発表は途中二度にわたってアクシデントがあったが、うまく切り抜けて見事な発表だった、とっておく。

コーヒースタンドとなり、荷物はまだ届いておらず、野間くんのみならず寒水先生の姿も見当たらない。コーヒースタンドには砂糖入りのがあり、これにミルクをたっぷり入れて飲むとおいしいのがわかった。次は欠測のセッションで Molenberghs 先生が二重ロバスト推定量の話をするので行ってみるが、さっぱりわからない。気がつくとも寒水先生がいて、野間くんはと聞くと別なセッションに出ている、いつ来たのかと聞くと、昨日野間くんとしめしあわせて明日はゆっくり行こ

うということにし、ふたりでタクシーで来たそう。

日本のブースにとうとう荷物が届いた。うちわはきれいにできていて、みなさん珍しいからかどんどんはけていく。いくつか持って、Andrade 先生、Rebeiro 先生、Louis 先生、Mead 先生とお偉方に配って歩く。Andrade 先生に、木曜のカンファレンス・パーティーの帰りのバスが 1 時発となっているがもっと早くしてくれ、と頼むと、1 時というのは最後でそれより前に必ずバスはでるが、11 時より前には出ない、サンバダンスやら何やら楽しいぞ、お前はきっと 1 時までいるだろう、いいえわたしは帰ります。

野間くんがいたのでうちわで頭をたたいて怒ってくれる。昼食の時間になり、日本で開催の IBC2012 の国際プログラム委員会 (IPC) 委員長 Christine McLaren 先生につかまり、これから会長と打ち合わせだからお前もこい、といわれなんだかわからないまま拉致される。お昼のサンドイッチを取って、あいている会場に Basford 会長、McLaren 先生、今回の IPC 委員長の Anton 先生とで IBC2012 の招待セッションのタイムテーブルについての話が始まる。IPC の役目と LOC の役目、デッドラインなどのアウトラインが決まる。帰ったら国内プログラム委員会委員長の東大 大橋先生に連絡しておかないと。

さてロンジチューディナルのセッションに行くと Anton 先生が発表者で、お前はこれから忙しくなるな、というので「maybe」というと「must だ」といって笑っていた。今回の会場は防音が悪く、隣の部屋の発表のみならず、ホールで話している人たちの騒音がうるさくいららす。カンファレンスバッグやネームタグ、なんでもチープにすますのはしかたないとしても、会場までもではねえ。

4 時から Editorial Advisory Committee なのでいってはいみたものの、これは出席しなくてもよかったらしい。出席したのはお偉いさんばかり、会長、Louis 先生、Young 先生、Byron Morgan 先生、Mary Davidian 先生。Biometrics と JABES のアップデート、JABES の新しい表紙、Biometrics のプリントバージョンとウェブバージョン、その他についてが議題で、みなさん会長経験者だったり Executive Committee の委員だったりの方たちばかりだった。

ようやく解放され、ブースに行くと丹後先生たちはすでに帰った模様で服部先生がなにやらあやしげな計算をしている。まだ今日は最後に表彰式があるのと、それをみてから丹後先生主催の IBC2012 決起集会に参加しないといけないので、しばしブースに座って放心する。18 時過ぎにメインの会場に移動し、表彰式の始まり。表彰は Molenberghs 先生、次期会長の Demetrio 先生などが受けていて、このほか Biometrics の 08、09 年の優秀論文賞が表彰されていた。なんだか今日は時差だの英語での気の抜けない会議だったので非常に疲れた。表彰式が 30 分くらいで終わったので、やった早く帰れると思ったのもつかの間、今度は Louis and Molenberghs の漫才コンビが壇上に上がり「IBC 25 回の歩み」なるものがはじまった。

さっさと終わればいいものを、またこの漫才コンビが受けを狙って、「Gosset はビール工場で働いたが、書いた論文はティーに関するものだった」、Finny 先生がおかしな顔をしている写真をだして「This seems funny, but it's Finny.」なんてあなた、笑えますか。ようやく 7 時過ぎに終わり、急いで満員のバスに乗って 30 分ほど立ちっぱなしで Majestic に到着。服部先生、

逸見先生、小森さんとそこから歩いて日本人会の会場の **Toca Jurere** に行く。と、飛田先生、寒水先生がホテルで待っていてくれた。日本人会のテーブルに行くのと丹後先生がおらず、山岡先生「丹後先生は調子が悪くてホテルに戻られたのであとはお願ひします」、というのだが「お願ひします」といわれてもなあ。調子がよくなったら戻ってくるそうです、っていわれても調子悪くて帰ったのに戻ってこれないでしょう、と思っただらしくして丹後先生が戻ってきたので安心した。

高橋先生が言うには英語がまったく通じない店で、英語のメニューもなく、ここでも長島くんのお手軽ポルトガル語本が大活躍したようだ。IBC に参加した日本人 16 人全員が勢ぞろいした。それぞれ飲み物を頼み、わたしはビール。ショッピイ(生ビール)というノンショッピイとのことで、ブラジルビールのボトル 2 種とハイネケンを持ってきた。Skol の人、という勢いよく服部先生だけが手を挙げ、後の人たちはもう一種類のプレミアムビールに。ほかの人たちは白ワインかお水。

丹後先生のあいさつの後、わたしが乾杯のあいさつをして、恒例のひとりづつの自己紹介。みなつまらんぞ、もっとおもしろい自己紹介をしないといかんなあ。料理は大皿でサラダ盛り合わせ、えびのグリル、シーフードパエリア、シーフードパスタ、シーフードの煮込み。サラダには得体のしれない白いものがついていて、みんななんだなんだと不思議がっていたが、食べてみたらホワイトアスパラ。パエリアもパスタもエビがごろごろしていた。煮込みは不思議と優しい味わいで、ブラジル料理もなかなかいいではないか。ビールをお代わりして満足する。みなさんはデザートまで食べて満足されたようだ。気がつくともう 10 時を回っていて、タクシーを 3 台呼んでもらい、寒水先生、野間さんと帰る。明日はエクスカッションの日なので日記もお休み。

## 12 月 9 日 (木) カンファレンス・パーティー

今朝はバスが 7 時 15 分に来るので早起きして食事に行く。定番と化したパン、ソーセージの煮込み 2 種、オレンジジュース、フルーツミックス、カフェオレ 2 杯。今朝のソーセージのトマト煮はいまひとつだった。1 階に降りバスを待つが、今朝はなかなか来ない。やっときて乗り込むとそこには昨日のツアーで真っ赤に日焼けした寒水先生とあいかわらず黒い野間くんが。朝はワクチントライアルのセッションに。ワクチンの有効性評価はワクチンを受けない人もほとんどの人が病気にならないので難しいし、安全性に至っては推して知るべしである。Self controlled case series の発表もあった。コーヒブレイクに明日の空港までのシャトルを確認する。明日は会場から 4 時から 1 時間ごとに空港行きのバスがでる、というのであるがだいじょうぶだろうか。

午前の 2 つめは missing data のセッション。Doubly robust MI というのがでてきた、なんのことかわかる人はわたしに教えてほしい。お昼はチキンサンドイッチ。高橋先生、飛田先生、オーストラリアで働いているという島津さん、きのう着いたばかりの慶応の南先生、寒水先生と合流。今日はカンファレンス・パーティーのため少しずつ予定が早く、コーヒブレイクも 10

分短く 20 分、昼休みもカットされているよう。午後は長島さんの発表。リモコンのトラブルはあったがぶじにこなしていた。

3 時半からは IBC2010 と IBC2012 の Local Organizing Committee (LOC) のミーティング。丹後先生、山岡先生、会長、国際事務局の Dee Ann Walker さん、Andrade 先生はじめ IBC2010 の委員の人たちが集まり、いわゆる引継ぎ。この大会はスポンサーがつかずたいへんだったそうで、Wiley や SAS のほかは州政府と大学の補助でまかになったとのこと。登録者は 800 人で、1/3 が正会員、1/3 が途上国、1/3 が学生という内訳だった。これで収支があっているのか心配なくらいである。

続いて 4 時半からは入れ替わって、International Program Committee の会議。山岡先生は IPC 委員の松山先生の代理出席、わたしは委員長の McLaren 先生からお前もでろといわれ、丹後先生が帰りそうになったので、LOC 委員長なのでいたほうがいいですよと引き止める。今度はたくさんの人たちがあらわれ、招待セッション決定までのタイムテーブル、一般セッションの IPC と LOC の役割の切り分けなどについて確認があり、その後のフリーディスカッションでは、プログラムに索引がほしい、若い人にもっと学会にきてもらいたいということで meet the expert セッションなどをもうけてはどうか、と提案があった。

夜のカンファレンス・パーティーはこれまたとんでもないところに連れて行かれるようで、一度バスでホテルに戻り、7 時にホテルにバスがくるとのこと。部屋に荷物を置いてしばし休憩し、7 時 10 分前に下に降りる。バスはちょっと遅れてきたが、今回はわたしが泊まっている Mercure とその次のホテルで座席がいっぱいになったらそれ以上は乗せずに出発した(会場からのバスは平気で詰め込むだけ詰め込むのだが)。これがまた山越えてへアピンカーブをぐにゃぐにゃ曲り、途中渋滞等もあって小一時間かかって会場に到着。しかも入口に係りの人はだれもおらず、ぞろぞろとあちこちでここでいいのかと聞いてようやくパーティー会場についたのが 8 時過ぎ。2 番目くらいの到着で、それからまただらだらと輸送されてくる。

なんとかビールをゲットできたので、ビールを飲み飲み、みなさんの到着を待つが、このビールがまたあまりうまくなく、かといってほかのトロピカルドリンクのようなものは飲む気がしない。(カイピリンガライムなるものを一口試してみたものの、局方アルコールのようだった。)最初にどーんとフルーツの盛り合わせが運ばれ、最初にフルーツかと思っていたら、後で山岡先生から、丹後先生はこのフルーツ盛り合わせがいいと思ったそうだ。カニのクリームシチュー、白身魚の南蛮漬(ほんとにそんな感じ)、生ガキ、カキのグラタンなどがでだったので、生ガキはいくらなんでも怖いのでパスして、それ以外を味見する。

科学院組、服部先生、逸見先生たちも到着。なぜかドイツ人と合流し少し話をする。立食なので、みなさんあっちへいたりこっちへいたり、丹後先生、山岡先生がやってくる。なんでも丹後先生はこのフリーな雰囲気が入ったそうで、神戸でも着席ではなくこういうディナーがいいね、といていたがだいじょうぶだろうか。服部先生に寒水先生をみなかったか聞くと、服部先生が乗っていたバス(来る途中で事故にあったらしいのだが、服部先生は寝ていて気がつかなかったとのこと)から寒水先生が待っているのが見えたそうだが、錯



覚かもしれない。まあ一だらだらしたパーティーで一旦フードがなくなり、別な場所でメインディッシュが供され、牛肉の煮込み、シーフードカレー、ライス。シーフードカレーはおいしかった。ツムラの上原さんとCox先生に日本にきてもらうにはどうしたらいいかを考える。上原さんはパーティーに禅の要素を加える、とわからないことをいっている、その件は上原さんにまかせることにする。

1時間くらいで帰りたくて仕方なくなったのだが、バスは11時まででないというのでおとなしく待つ。いつの間にか科学院のみなさんは帰ったようである。11時になってバスに乗ろうと入口のほうに戻ると、ようやくサンバダンスがやってきて女性がふたり踊っているが、いまは一刻も早くホテルに戻ることにしか望みはない。ところが11時にでるはずのバスは、バスはたくさん止まっているが運転手がない。あと7分だと言われてからもう20分以上経過し、周りの人も「Brazilian 7 minutes.」なんていっている。30分ほど立ったまま待たされ、ようやくバスに乗れたと思ったら、結局出発したのは12時。しかも満席なのにどんどん乗ってきて、誰かが満席だから別なバスに行けという、別なバスがでるのは一時間後だからこれに乗れと言われたとのことでたいへんな混雑。なんだかんだでホテル着が1時、パッキングをしてシャワーを浴びて2時少し前によく寝る。

12月10日(金)さらばフロリパ、さらばブラジル(と思ったら…)

朝食は例によってソーセージの煮込み2種、パン、グレープフルーツジュース、バナナケーキ、フルーツミックス、カフェオレ2杯。今朝は荷物があるのでタクシーで会場に行く予定で、9時過ぎにチェックアウト。会場までタクシーを頼み、19リアルだったので運転手に50リアル渡すとみぶりでなんだか困ったようなしぐさをし、お金を出してひらひらさせているのでどうやらお釣りがないようだ。まあお釣りがないなんてことあるわけないと思うが、20リアル札、5リアル札、2リアル札しかないというので、25リアルを取って50リアルを渡すともう10年来の友人のような感じ。

会場に荷物に預けて今日はもうなにも聞く気がしないので、日本のブースに座って時間をつぶす。服部先生、ゆうべは結局1時のバスでパーティーから帰ってきたそう。お昼はみんなでテントで食べ、しばしだべる。空港に行くというバスがちゃんときているかどうかどうも怪しげなので、Ribeiro先生に確認してもらうことに。いくらなんでもブラジル支部の会長に対していい加減なことはいわないだろう。受付では30分おきに空港行きのバスが出る、4時で問題ないという答え。なにかあったら受付にこい、というのでなにかあったらでは遅いのだが、たっぷり余裕はみているのでいいでしょう。

最後に高橋先生の講演。この部屋は扉の調子が悪く、うっかり手を放すとすごい勢いでしまりドーンという音がして講演は中断されてしまう。そこでそれをネタにするように高橋先生にいったのだが、そんな余裕はないとのこと。案の定高橋先生の講演の途中で、扉がドーンとしまったのであるが、その犯人は山岡先生であった。これで今回の学会は終了。実はこのあとまだひと波乱あったのだが、公開版はこれでおしまい。